

## 助成対象事業成果報告書（概要版）

制度名	チャレンジド向け通信・放送役務提供・開発推進助成金
助成対象事業名	手話アニメーションを用いた聴覚障がい者向けX線検査支援システムの追加機能開発とサービス提供
助成対象事業者名	株式会社アイエスゲート
助成金の額	6,594千円

### 【助成対象事業の全般について】

①	助成対象事業の概要	聴覚障害者の方々が安心してX線検査を受診できるように、X線検査に関する呼出しから検査説明や検査中の指示を視認(文字/アニメーション情報/手話)できる支援システムを開発してサービスを提供します。
②	助成対象事業の目標	医療機関に聴覚障がい者にとって困難なX線検査を安心して、円滑に受診できる仕組みを提供します。 また、これまで検査者の指示が分からないためX線検査の受診を躊躇していた聴覚障がい者でも安心して受診できるシステムを開発する事で、受診者の裾野を広げ病気の早期発見に寄与します。

### 【平成29年度実施部分について】

③	助成対象事業の実施内容	<p>(1) 平成28年度に開発した胃部X線検査の手話対応イラストと文字の54コンテンツに手話アニメーションを追加実装しました。更に実用性に則した7コンテンツ追加に合わせて3D手話アニメーションも追加で実装しました。今年度開発した胃部X線検査前後の28コンテンツにも3D手話アニメーションの実装を行いました。</p> <p>(2)他検査への対応 肺がん検診(胸部X線検査、胸部CT検査)、乳がん検診(マンモグラフィ)検査時の指示のコンテンツを作成しました。更に、実際の検査に即して検査前後の指示コンテンツも受診者が検査内容を直感的に理解できるよう視認性と判断のし易さを追求して、コンテンツを実装しました。</p> <p>(3)呼出しと検査説明 受診者用タブレット端末で受診者が検査説明を閲覧可能。検査者用タブレット端末からの操作で受診者用タブレット端末に検査呼出しを表示出来るようにしました。検査待合室からX線検査室への誘導は、検査室がわかるように案内図を表示するようにしました。</p> <p>(4)操作性の向上 使用頻度が高い指示をフットスイッチで操作可能にしました。更にハンドスイッチでも指示が行えるようにして、タッチパネルではなくハードウェアスイッチが好まれるユーザーにも対応出来るようにしました。</p> <p>(5)実証評価の実施状況 協力医療機関にて、システムの実証評価を行い、診療放射線技師と受診者の方々から高い評価を頂きました。</p>
---	-------------	---

④	助成対象事業の成果	<p>平成28年度に開発した胃部X線検査支援システムは製品名『e-検査ナビ』として平成29年7月から販売を開始しました。平成30年3月末時点で全国8地域中の6地域に10システム(6か所の医療機関:検診車向け7台、施設据置3台)をご導入頂く事ができました。</p> <p>今後は、聴覚障がい者の方々が全国どこでも安心して胃部X線検査を受診出来るように、47都道府県に最低1システムをご導入頂けるよう拡販してまいります。また、システムの普及だけではなく聴覚障がい者の方々の集団検診の仕組みづくりを医療機関、市町村、関連団体に提案して受診率の向上等のお役に立ちたいと取り組み始めております。</p>
⑤	補足説明事項	<p>検診で発見したがんを治療する際の支援も必要と考えます。今後は、聴覚障がい者の方々が安心して放射線の治療を受けることが出来るようにコミュニケーション支援システムの開発を引き続き行っていく所存です。</p>